



「協力」をテーマに 第6回通学合宿 鶴田にぎりまんま塾

9月29日(火)～10月3日(土)、鶴田町公民館で、4泊5日の第6回通学合宿「鶴田にぎりまんま塾」が開催されました。今年は管内の小学校から五、六年の児童40人(男子10人、女子20人)という過去最高の参加者が集まり、弘前大学からの学生15人を含め、延べ39人のスタッフが指導にあたるという、かつてないほど大人数の通学合宿となりました。参加した児童たちは日常生活とは違う団体生活の中で、親のありがたさ、今回のテーマでもある「協力」し合うことのすばらしさ、食事の大切さなど、数えきれないたくさんのお話を学んで巣立っていきました。

まずは正しい生活リズムへ

子どもたちに、正しい生活習慣を身につけてもらうため、毎日の主なプログラムは次のようになっています。

- 午前5時45分 起床
 - 6時 朝食準備
館内清掃
 - 6時45分 朝食・後片付け
 - 7時15分 登校準備
 - 7時30分 各学校へ登校
- ◎各学校で授業
- 午後4時 各学校から下校
 - 4時30分 公民館到着



班員がそろい次第買い物・夕食準備・館内清掃

- 6時 夕食・後片付け
- 7時 入浴または体験学習
- 8時30分 学習の時間
- 9時30分 夕べの集い
- 10時 就寝

子どもたちは初日、2日目となかなかこの生活に慣れませんが、3日目からは徐々に慣れが見えてきて、終盤を迎える頃には、この生活が普通に見えるようになっていきます。

塾生活は、10人ずつ4班に分かれ、それぞれの班に大学生指導員3人が付き、生活の部分(炊事、洗濯、掃除、買い物)が行われる班別活動と塾生全員でおこなう体験学習とがあり、常に団体の中で生活することにより、正しい生活リズムを身に付けていきます。

- ①班員総出で食材を買い出しの様子。同じ食材でも良い物を選ぶよう気を付けていた。
- ②夕飯を調理する男子。毎日たくさんの野菜を切るは大変だが、真剣に取り組んでいた。
- ③洗濯物を取り込むのは洗濯班長の仕事。要領を覚えるまで苦労した。



第6回通学合宿 鶴田にぎりまんま塾



不安から安心へ。大学生の存在
 この塾になくしてはならないものの一つが大学生の存在です。生活を常に共にする大学生は、朝から晩まで塾生と同じパターンで生活しています。体験学習や料理などでは、地域の指導員から子どもたちと一緒に学ぶ、掃除や洗濯ではできはきと行うよう指導を行い、学習の時間ではホ-

家の人の大変さが分かる朝
 朝六時、眠い目をこすってまず食事班が朝食を作り起きてきます。ドラドラと調理をしていては学校に遅刻してしまうので手早く調理をしなければなりません。食事班以外は館内清掃をし、朝食会場の準備をします。朝食を食べ終えると身支度をし、いざ学校へ。家にいる時とはまるで違う生活に、家の人のありがたさが身にしみて分かるのが朝です。



塾の基本は「食育」から
 今回参加したほとんどの子どもたちが、家で料理したり、皿を洗ったりしたことがありません。調理実習では初日から手を切るハブニングもありましたが、正しい包丁の扱い方やおいしい作り方を知ることが料理の楽しさを感じることでできました。
 この塾では、「食育」をベースにした生活が行われています。塾が開催される前から、町の栄養士がバランスの良い献立を考え、鶴田産の安全で安心な食材を使用し、調理指導員からレシピやコツ

ムティーチャーとして勉強を教え、自由時間にはいっしょに遊び、そして子どもたちと同じ部屋で眠ります。いつも一緒にいてくれる大学生の存在が、子どもたちの不安を和らげ、行動を積極的にしてくれています。



5日間での成長
 合宿も終盤を迎えるころになると、生活にも慣れ、協調性や自主性が生まれてきます。
 いつもは、好きなテレビを見て、ゲームをやり、ジュースやお菓手に囲まれた生活を送っていた子どもが、自分自身に厳しくなることはなかなかできません。塾のような規則正しい団体生活を体験すると「しっかりしよう」「頑張ろう」という気持ちが湧いてきます。きっとその気持ちが子どもたちを成長させているのだと思います。

を教わりながら子どもたちが食事を作る。そしてそれをしっかりと食べる。「食」の基本があるからこそ、にぎりまんま塾の目的が達成できるのです。



- ※参加者の感想を、最終ページ「にぎりまんま」に載せています。
- 【合宿の目的】**
- 保護者の手から離れ、子どもたちに実体験の場を提供する。
 - 同世代の子どもたち同士が、協力し合いながら生活することによって協調性を育ませる。
 - 買い物、料理、掃除、洗濯、布団の上げ下げなどを体験することにより自主性や自立心を養い、家庭や家族の大切さを見つめ直す機会を提供する。
 - この事業を通して文化と創造の世界にふれさせる。



④大学生指導員の皆さん。⑤3日目の体験学習「凧づくり教室」。地域の方が指導にあたる。⑥4日目の体験学習「軽スポーツ教室」。⑦閉校式で感謝のことはを述べる安田沙耶香さんと松江隼輝君。⑧最終日、長谷川塾長から一人一人に修了証を手渡される。

